サケ稚魚放流情報　No. 5

令　和　５　年　５　月　１８　日
岩手県水産技術センター
漁　業　資　源　部
ＴＥＬ：０１９３－２６－７９１５
ＦＡＸ：０１９３－２６－７９２０

湾内の表面水温は 10～12℃台であり、各湾で平年よりも高い傾向です。動物プランクトン沈殿量は、各湾で平年よりも少ない傾向です。

本年度の放流旬全体を通してみると、表面水温は全体的に平年よりも高めであり、動物プランクトン沈殿量は３月上～下旬に増加傾向にありました。

なお、熊野ふ化場では、5/17 に平均５g 台の稚魚を放流しました。今後、回帰親魚調査により、大型稚魚放流の効果を検証していきます。

1　表面水温（℃）

	野田湾※2	宮古湾	山田湾	唐丹湾	越喜来湾	大船渡湾
観測値(5/10, 11)	**10.8**	**11.2**	**11.4**	**10.6**	**11.2**	**12.6**
前年同期	10.7	11.7	11.5	9.2	9.9	11.3
平年*3	－	10.7	10.7	9.3	9.9	11.2

各湾の表面水温は 10～12℃台で、各湾で平年より高めとなっています。黒潮と津軽暖流の勢力が強くなっており、今後、本県沿岸の表面水温は上昇していくと予測されます。

本年度の放流旬を通してみると、表面水温は全体的に平年よりも高めの傾向でした。北上する黒潮が強勢であり、親潮の南下が弱勢であったことが要因として考えられます。

2　動物プランクトン沈殿量（ノルパックネット鉛直 20m曳き、mL/m³）

	野田湾※2	宮古湾	山田湾	唐丹湾	越喜来湾	大船渡湾
観測値(5/10, 11)	**0.03**	**0.13**	**0.20**	**0.26**	**0.46**	**0.46**
前年同期	0.44	1.31	0.72	1.06	0.53	0.98
平年*3	－	1.81	0.79	1.42	1.41	1.29

各湾における沈殿量は、平年を下回り、減少傾向にあります。前年同期に沈殿量が増加した野田湾及び宮古湾については、大きく減少しました。

本年度の放流旬を通してみると、動物プランクトン沈殿量は３月上～下旬に増加傾向を示しました。

本年度は北海道から移入した稚魚の成長に合わせ、３月初旬から２ｇ台以上の稚魚放流を実施したふ化場が多いため、概ね沿岸環境に合わせた放流が実行できたと考えられます。

3　その他

（１）　北上丸による沿岸海洋観測・動物プランクトン発生状況調査（５湾）及び当センター並びに沿岸広域振興局水産部による野田湾の観測調査（図赤枠）によるものです。

（２）　いわて大漁ナビ（https://www.suigi.pref.iwate.jp/）の定地水温情報・衛星画像や当センター発行の海況情報等も参考にしてください。

※１　これまでの本県の放流実績から、放流の重心を３月下旬に設定し 2.0g 以上のサイズで放した年級の回帰率が高い。

※２　野田湾は５月 12 日に観測・調査を実施、動物プランクトン沈殿量はネットを２回曳いて測定。

※３　平年は過去 18～20 年間の同期の平均値。野田湾は H17、H19 の北上丸及び県北水産部の調査結果の平均値。

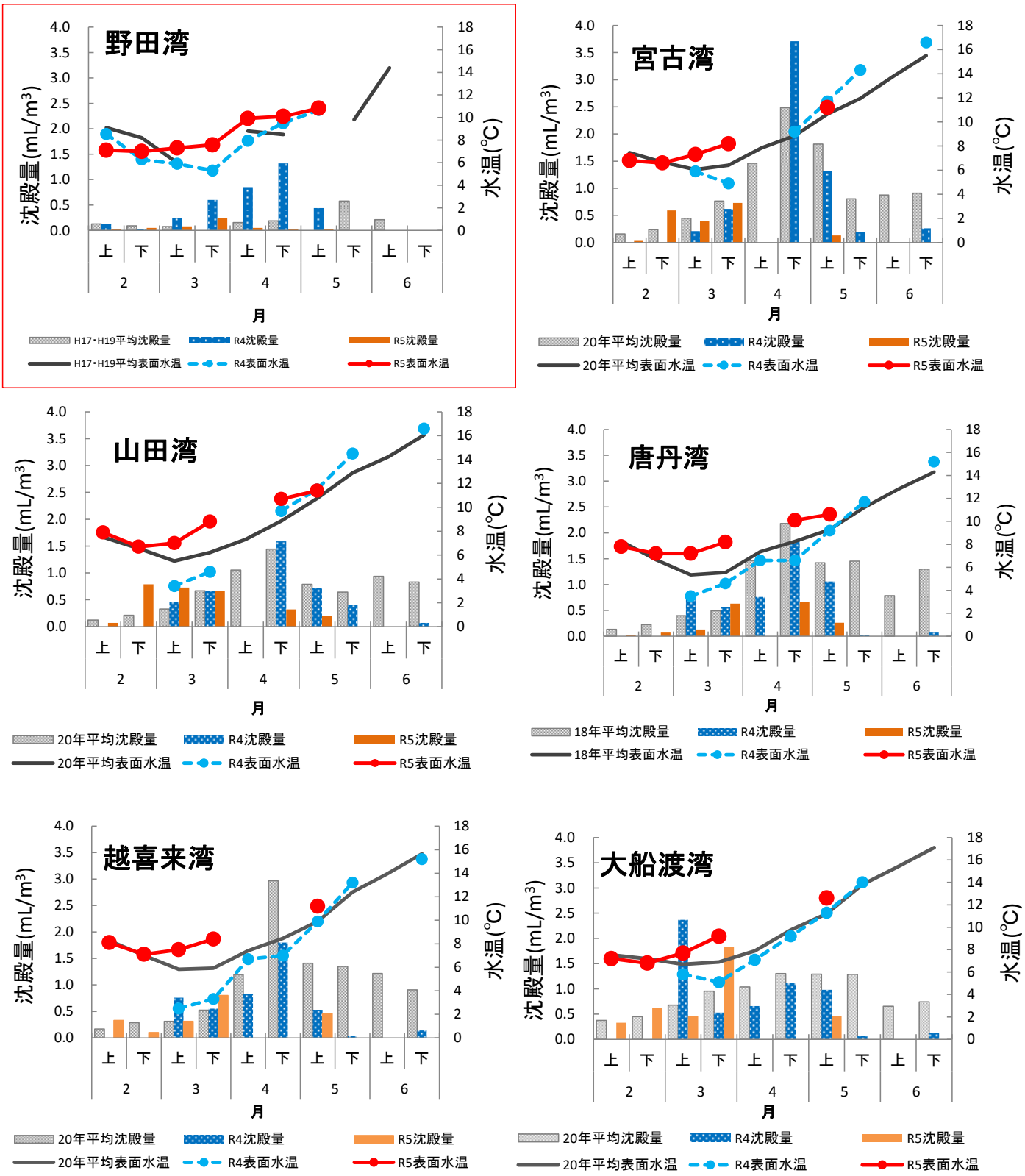

図　６湾における動物プランクトン沈殿量及び表面水温の季節変化

※水温値が欠落している箇所は欠測であり、併せて同期の沈殿量データも欠落している。